

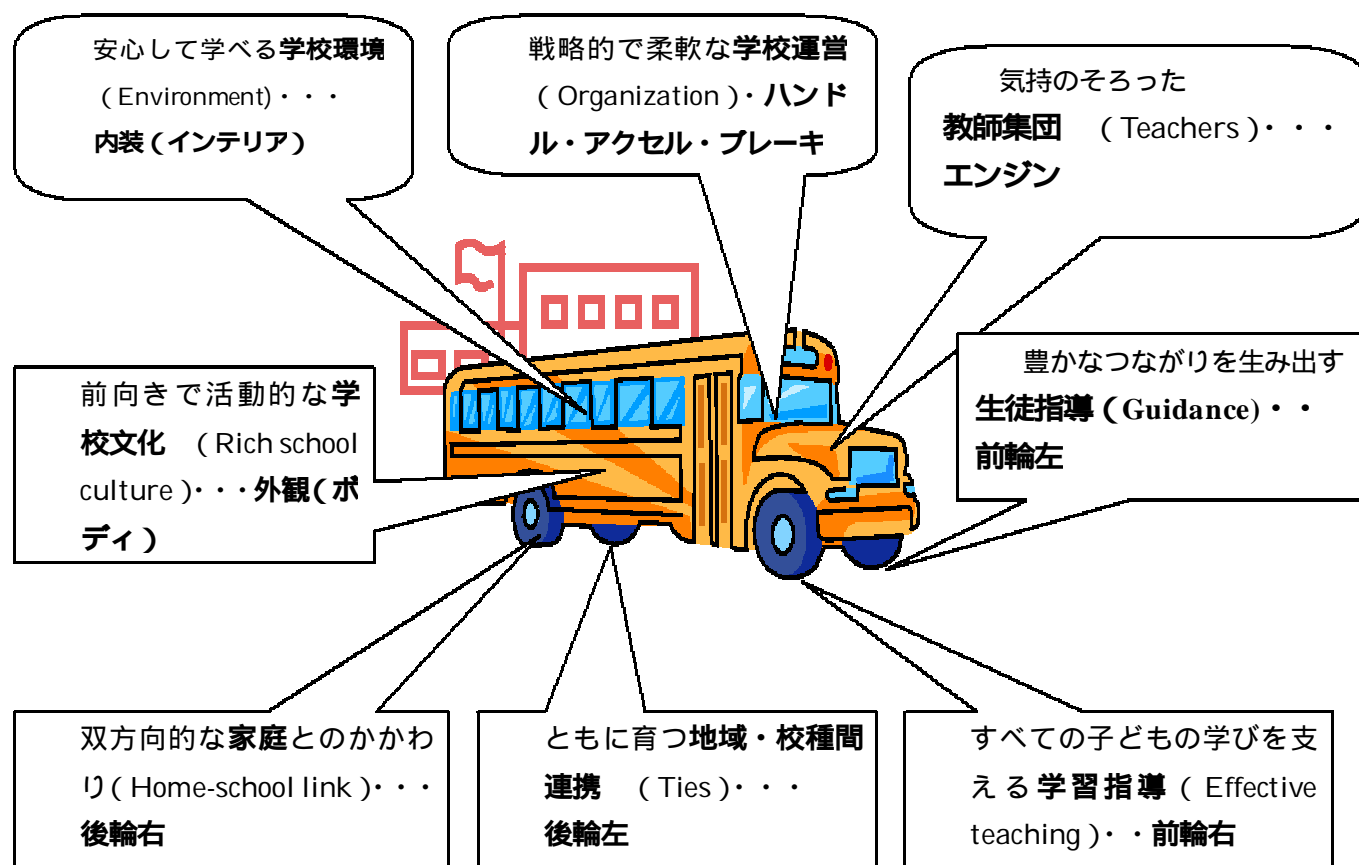
スクールバス・モデル 「力のある学校」の8つの要素 together 号

<p>気持のそろった教師集団 (Teachers)・・・エンジン・・・最重要項目</p> <ul style="list-style-type: none"> * チーム力を引き出すリーダーシップ・・・校長・教頭・ミドルリーダー * 信頼感にもとづくチームワーク・・・学校の組織力 * 学びあい育ち合う同僚性・・・若手教員の育成 <p>学校づくりの要は、まとまりのある教職員集団をいかに作り上げるかである。学校が良くなるか悪くなるかは校長次第である。キーパーソンが学校には要る。</p>
<p>戦略的で柔軟な学校運営 (Organization)・・・ハンドル・アクセル・ブレーキ</p> <ul style="list-style-type: none"> * ビジョンと目標の共有・・・児童生徒及び地域や保護者の実態把握, 自校の教育課題の明確化、公立学校は走る地面を選べない。十分なガソリンが必要。 * 柔軟で機動性に富んだ組織力・・・教育資源組み合わせ最適化、システム化
<p>豊かなつながりを生み出す生徒指導 (Guidance)・・・前輪左</p> <ul style="list-style-type: none"> * 一致した方針のもとでのきめ細かな指導・・・情報の共有とコーディネート * 子どもをエンパワーする集団づくり・・・協働的な学び、子供の自治能力育成
<p>すべての子どもの学びを支える学習指導 (Effective teaching)・・・前輪右</p> <ul style="list-style-type: none"> * 多様な学びを促進する授業づくり * 基礎学力定着のためのシステム・・・基礎学力保障のセーフティーネット
<p>ともに育つ地域・校種間連携 (Ties)・・・後輪左</p> <ul style="list-style-type: none"> * 多彩な資源を生かした地域連携 * 明確な目的をもった校種間連携・・・小中高連携
<p>双方向的な家庭とのかかわり (Home-school link)・・・後輪右</p> <ul style="list-style-type: none"> * 家庭とのパートナーシップの推進・・・家庭訪問、日本の学校文化 * 学習習慣の形成を促す働きかけ
<p>安心して学べる学校環境 (Environment)・・・内装（インテリア）</p> <ul style="list-style-type: none"> * 安全で規律のある雰囲気 * 学ぶ意欲を引き出す学習環境
<p>前向きで活動的な学校文化 (Rich school culture)・・・外観（ボディ）</p> <ul style="list-style-type: none"> * 誇りと責任感にねざす学校風土 * 可能性をのばす幅広い教育活動

「公立学校の底力」より

大阪大学大学院人間科学研究科教授 志水宏吉 ちくま新書

スクールバス・together 号 図解



＊ ＊ 「**力のある学校**・Empowering school」とは・・・学校は授業だけやっていたらいいというものではない。生徒指導や学級活動の領域もあれば、行事や部活動なども盛んにおこなわれている。給食指導や清掃指導といったジャンルもあるし、校種間連携や地域連携といった活動にも取り組まなくてはならない。とりわけ公立学校は、専門店としては成り立ちえず、地域密着型スーパーというか、「何でも屋」たらざるをえないのである。問われるべきは、個別的・専門的な優秀性ではなく、多面的な総合力である。「力のある学校」とは、高い総合力を発揮している学校のことである。

＊ ＊ 教育は買ったり、選んだりするものではなく、一緒に作っていくものである。出来合いのものを消費するものでもない。たまたまの縁で出会った者同士が、何かを作り上げていくのが教育である。公立学校はそれがなされるのにふさわしい場である。

＊ ＊ スクールバスが首尾よく走行するためには、十分なガソリン、教育行政の手厚い支援が不可欠である。そうでないと、教師たちのエネルギーが枯渇してしまう。